

日本人大学生の中国留学に関する現状と課題

—曲阜師範大学における長期留学を通じて—

1

<概要> 論者は、2019年3月から曲阜師範大学に留学し半年が経ち、現地での生活にも慣れ、より一層中国語の勉強に励んでいる。本稿は、論者のこれまでの留学生生活を視点に、その現状と課題について述べた。具体的には、中国への留学を希望する日本人大学生への支援、そして曲阜師範大学や留学生受け入れ側に対して長期留学の改善を投げかけることを目的とし、またそれと同時に、日本での中国語学習の現状や留学をするまでの過程、現地での生活の現状や留学に関する課題について述べた。

<キーワード> 留学生、中国留学、異文化理解、日本語教師、コミュニケーション能力

1. 山口県立学での中国語学習について

(1) 中国語を学習しようとした動機

山口県立大学では、第一外国語として英語を学び、第二外国語として韓国語、または中国語を選択し学習することができる。論者は、高校生の時、修学旅行で台湾に行ったことがきっかけで中国語に興味を持ち第二言語で中国語を選択した。

(2) 授業、検定試験、スピーチコンテスト

論者は、授業として「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「実践中国語Ⅰ」、「実践中国語Ⅱ」、「中国語講読Ⅰ」、「中国語講読Ⅱ」をこれまでに履修し、中国語の基礎から実践編の日常会話を学習した。

中国語検定試験は、山口県立大学が会場となり、3級を受験した。検定のための学習として正課の授業とは別に教員が主催する中国語学習会に参加し、受験対策に励んだ。

また山口県立大学では、「山口きらら杯マルチリンガル・スピーチコンテスト」を開催している。日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、手話から二言語を選びスピーチ能力を競う大会である。帰国後はこの大会に出場することを考えている。

(3) 姉妹校への短期・長期留学の状況

山口県立大学には、短期の「海外語学・文化研修」と、長期の「交換留学」の二種類の留学がある。

短期留学の派遣先は中国・曲阜師範大学。韓国・慶南大学。カナダ・ビショップス大学。オーストラリア・ニューカッスル大学。シンガポール・シンガポールポリテクニクである。期間は約一か月で、語学を集中的に学習し異文化理解を深めるプログラムである。

長期留学の派遣先は中国・曲阜師範大学、青島大学。韓国・慶南大学、釜山大学。アメリカ・センター大学。カナダ・ビショップス大学。フィンランド・ラップランド大学。スペイン・ナバラ州立大学である。期間は約一年で、海外の大学からの留学生を受け入れと共に派遣されるプログラムである。

私は二年前、短期の海外語学・文化研修に参加し曲阜で約一か月間中国語を学習した。また上海や北京を訪れたり、現地の学生と交流したりと異文化理解を深めることができた。

2. 曲阜師範大学への留学の動機

曲阜師範大学への留学を決めた理由は、中国の文化や言語をさらに自分の目で見て触れて深く学びたいと考えたからである。上で述べたが、私は二年前、海外語学・文化研修で曲阜市を訪れる機会があった。その時中国語は全く分からず中国人と中国語で交流できなかったことがずっと心残りだった。また食文化や歴史、中国人学生の生活や街の雰囲気など、同じアジアなのにこんなにも日本と違うことにカルチャーショックを受けた。さらに曲阜市は孔子の故郷といわれ街には『論語』の一節が表記されているなど現地の人や街は孔子を重んじていることに興味を持った。以上のようなことについて、一年間曲阜に留学することによって、更に理解を深めることができるのではないかと考えたのである。

3. 留学における学習について

曲阜師範大学での中国語学習について日本と比べて感じた長所と短所、そして課題について述べる。

(1) 中国語を学習するうえでの留学の長所

①授業がすべて中国語

中国語での授業は、次第に授業内容を理解することができるようになりリスニング力を自然に身につけることができる。

②習ったことがすぐ実践できる

授業で習った単語や例文を、中国人の友達やスーパーですぐに実践できるため、身につけやすい。

③日本語に訳さなくてもいい

日本では中国語の文を日本語に訳す必要があるが、中国では日本語に訳す必要が無いため、漢字やその文を見て推測する力を養うことができる。

④実用的な中国語が学べる

教科書の中国語だけではなく、現地の人や学生が使っている流行の中国語などを学ぶことができる。

⑤ネイティブな発音を日常的に聞くことができる

日常生活や会話の中でネイティブな発音を聞くことができ、スピーキング力やリスニング力の向上につながる。

(2) 中国語を学習するうえでの留学の短所

①留学生の中国語を覚えてしまう

他の留学生と中国語で会話する時や、授業中などに、彼らの間違った中国語や発音を聞くため、間違った中国語を覚えてしまう。

②授業で留学生に押されて消極的になる

アジアの学生は黙って授業を聞くことに慣れているため、他国の学生ばかりが発言し、アジアの学生が発言や質問する機会がなくなる。

③留学生の母国語の影響により授業の進み具合が異なる

同じ中国語のレベルの留学生でも母国語で漢字を用いる日本や韓国の学生と、母国語で漢字を用いない学生では授業の内容の理解度やスピードが異なるため授業がつまらないと感じることある。

④方言が会話に混ざる

現地の人と会話をする場合、方言が強い人が多くコミュニケーションを図ることが難しい。

⑤日本との授業スタイルの違いに戸惑う

日本ではスピーキングに力を入れておらず文法や単語を重視しているように感じる。しかし中国ではスピーキングが重要視されるため中国語を話すことを強いられる。しかし最初は中国語が全く話せなかった私にとってより積極的な発言が必要とされた。

(3) 留学における学習の感想、課題

日本で二年間中国語を学習したが、留学生生活半年たった今確実に留学前よりも中国語力が伸びていることを身に染みて感じている。特にリスニング力とリーディング力が伸びていると感じる。反対にスピーキング力が伸びておらずこれからの私の課題となっている。その理由として中国人と話す機会が少ないことが挙げられる。自ら積極的に行動することが後期からの目標である。

中国人と話す機会が少ないことは曲阜師範大学側あるいは留学生受け入れ大学側の留学制度の課題としても取りあげることができる。私たち留学生の積極的な行動も求められるが、宿舎や教室も留学生で隔離されているため交流する機会が非常に少ない。そこで私は本科生の授業に留学生も参加することを一つの解決方法として提案する。そうすることによって中国人の学生と触れ合う機会が増え、新しいことに興味を持つ機会を与えることもできるのではないだろうか。

4. 留学における日常生活について

日本と中国ではもちろん文化や社会で大きな違いがたくさんある。ここでは私が留学中に感じた日本と中国の違いについて述べる。

(1) 日本と中国の文化の違い

①衛生面の違いについて

中国は、日本に比べて不衛生であると感じることが多い。スーパーの食品売り場や食堂にはハエがわいており、街にはごみの分別がなく道路にはたくさんのごみが落ちている。また中国の水道水は飲めないため食事でする水は沸騰させ、歯磨きや飲むための水は全て購入した水で生活している。

②食文化の違いと食事をするときのマナーの違いについて

まず日中の食文化の違いについて、論者が最も明瞭であると感じたことは、曲阜市の食べ物は日本に比べると脂っこく辛いことである。また曲阜市の食堂やレストランでは生野菜や魚を見るのが少ない。また中国の野菜や果物、食堂やレストランの食事代は日本に比べると非常に安い。

次に食事のマナーについて最も印象的だったのは、曲阜市には露店や食堂で持ち帰りを買って歩きながら食事をしている学生や、麺を袋に入れて持って帰る姿だ。また食堂やレストランでは食べ残しや肉の骨などを机に直接おいていく姿や食事をするとき大きな咀嚼音を鳴らしている。このような行為は日本ではマナー違反となるため日本との大きな違いと言えるだろう。

③大学生の生活の違いについて

日本の大学生は遅くとも夕方に授業が終わり、授業が終わるとアルバイトをしに行く。そして空いた時間に課題や自主学習をする。しかし中国人の学生は朝早くから夜遅くまで授業があり、授業がない日は図書館などで自主学習を終えて寮に帰る。そのためアルバイトしている学生は少ない。

(2) 日本と中国の社会の違い

①キャッシュレスの発展

現在私は電子マネーである微信 (Wechat) 支付宝を、中国の銀行で口座を開設し活用している。財布を持つ必要もなく支払いができる。また携帯の支払いができたり、友達にお金を送ったり、タクシーを呼ぶこともできるため非常に便利なアプリである。

日本では現金決済が一般的でクレジットカード決済やモバイル決済が普及していない。日本のキャッシュレスの比率は年々増加しているが中国と比べると日本はかなり遅れていると感じる。解決すべき課題も多いと思われるが、今後日本の経済や私たちの生活の質を高める上ではキャッシュレスは必要不可欠だと考える。

②交通面

車、自転車、電動自転車の利用者が非常に多く、バスや電車、高鉄などの交通費用も安いいため日本に比べて中国の交通は利便性が高いように感じる。

その一方で私が最も驚いたのは中国の車やバイク、電動自転車のクラクションの使い方である。日本では道を避けてくれた時に感謝の気持ちを表すときや、本当に危険な時にしか鳴らさない。しかし中国では横を車が通る時や人が歩いている時など通ることの意思表示や危ないことを事前に知らせるためにクラクションを鳴らしているように思う。そのため街中ではクラクションが鳴り響いている。このような状況は日本にはないため大きな違いと言える。

③写真撮影禁止の場所が多い

中国では街中で撮影禁止という標識が多くたっている。日本では街中でそのような標識はみたことがない。そのため撮影する時にはその標識がないか、写真を撮って良い場所なのかを確認する必要がある。

④携帯電話でのアプリ

中国では日本で一般的な LINE、Instagram、Facebook、Google が利用できない。そのため中国では主に LINE に変わる「Wechat」や Google に変わる「百度」というアプリを利用している。私たち日本人にとっては非常に不便なことであるように思えるが、「Wechat」や「百度」を活用することによって私たちの留学生活に大きな支障はない。

(3) 留学における日常生活の感想、意見

留学における日常生活で感じた中国と日本との違いについて上記に述べたが、私が留学をする上で常に気を付けていることが二つある。「日本の当たり前が当たり前でないということ」「文化や社会の違いは受容しなくていいが理解すること」である。最初は違いに戸惑うこともあったが、このことを意識していると次第に現地の生活に慣れ留学が始まって約一か月

後には充実した生活を送っていた。これから留
学生活を始める方もこの二つのことを意識し
て生活してほしい。

5. 帰国後の予定、目標

①HSK、中国語検定の受験

自分の中国語レベルがどの程度向上したか
を確かめるために、そしてさらにこれからの日
本での中国語学習のモチベーションを高める
ために HSK6 級と中国語検定 2 級の取得を目指
している。

②卒業論文

卒業論文では現在中国の食文化である屋台
や夜市に焦点を当てて研究しようと考えてい
る。曲阜市には、大学内や市場には個人で経営
されている屋台がたくさん並んでおり、道路に
も屋台があり、公園では夜市が開かれているな
ど、座って食べる食堂やレストランだけでなく
様々な外食の形態があることを知った。

日本では、縁日のときに屋台を見る程度で毎
日行われているわけではない。また、日本では
夜市というものを見たことがない。

そこでなぜ日本では夜市や屋台が普通に見
られないのか、もし日本でそれらを行うことが
できるのならば観光地として観光客を増やす
ことができるのではないかと考えた。

ただそれぞれの国・地域や民族の暮らしに合
った食文化のあり方があり、それは時代背景が
関係しているのだと考えており、さらに深く研
究したいと考えている。

③日本語教師への道

曲阜師範大学で日本語を独学している学生
と出会った。日本語についての質問をされるが
日本人なのに答えることができない自分に戸
惑った。なぜ答えることができないのか、その
ことをきっかけに日本語教師に興味を持った。

日本を訪れる技能実習生や留学生は年々増
加しており、日本語教師は一定の需要が見込ま
れると考えている。そしてその中でも日本語の
学習者数が最も多いのが中国とされている。そ
のため中国人に日本語を教えることの魅力を
感じている。

山口県立大学では日本語教師の資格を取得
することができる課程がある。帰国後は日本語
教師の資格を取得するために履修しようと考
えている。

④将来のなりたい人物像

グローバル化が進む中で、「異文化を理解す
る能力」と「コミュニケーション能力」を体得
し世界に貢献できるような人物になりたい。ま
た何らかの形で日中の友好・交流の懸け橋とな
ることが私の目指す人物像である。

その一歩として今の留学がある。日本人とし
てのアイデンティティをしっかりと持ち、相手
の異文化を理解する、語学はもちろんコミュニ
ケーション能力を高めることが将来最も重要
なことだと留学で学んだ。

また、私たち日本人が持っているテレビやニ
ュースで得た情報の中国へのステレオタイプ
や偏見と実際では大きな違いがあることを学
んだ。

このような経験を活かし将来の目指す人物
像に近づけるよう努力し続けていきたい。今で
できることとしては帰国後も中国語を学習し続
け、まずは自分の身近な人から中国での生活や
リアルな中国を伝えていきたいと考えている。